

教師ノート

日付	2022年 8月 28日
単元	使徒の働き・1
テーマ	海外宣教
タイトル	キプロス島での伝道～第1回伝道旅行
テキスト	使徒 13:1-12
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) マルコ 16:15
AG 日曜学校教案参照箇所	小下 2 巻 4 題 3 課、小上 3 巻 1 題 6 課、中 3 巻 1 題 4 課
メモ(情報・例話など)	<p>5回にわたってパウロの伝道旅行をたどります。そして最後にローマへたどり着くところも扱います。伝道旅行地図を子どもたちと一緒に作成したり、掲示すると良いでしょう。第1回伝道旅行は1040キロ、第2回は1460キロ、第3回は1600キロの行程だと言われています(新聖書注解)。今教会のある街から、どのあたりまで行って帰ってきたらそれくらいの道のりになるのか(cf.東京-大阪間は、約500キロ)、また車も電車も飛行機もない時代の旅であることなども伝えながら、普通の観光旅行とは違うことを伝えましょう。Iコリント11:23-27に、どれだけ困難な旅であったかが述懐されています。それでもキリストを宣べ伝えずにはおれない思いが、初代教会とパウロなどの宣教者にあったことを土台としながら語りましょう。</p>
□導入	<p>「イエスさまはなに人か知っていますか？」(先生は小さい時、日本人だと思っていたよ・笑)遠いイスラエルの国に生まれたイエスさまのことを、私たちがココ(日本)で知っているのは、ココまで伝えてくれた人がいるからです。教会は聖霊によって誕生してから、外国の人々にもイエスさまを宣べ伝え続けています。</p>
□ポイント1 教会は、バルナバとサウロを海外伝道につかわしました(1-3)	<p>アンテオケ教会には、ユダヤ人だけではなく、クレネ人やギリシア人、キプロス人など、多くの国の人がいました(11:19-21 参照)。みんなが教会で礼拝をしていると、聖霊なる神さまが「バルナバとサウロを神さまの働きにつかわすように」と言われたのです。それは海外(外国)に行き、イエスさまのことを宣べ伝えるという働きのことでした。そこで教会では、断食と祈りをして、バルナバとサウロに手を置いてお祈りしてから送り出しました。</p>
☆海外伝道は、サウロが「外国へ行ってみたいなあ」と思って始まったものではありませんでした。聖霊の導きの中で、アンテオケ教会のみんなが中心となって、バルナバやサウロのために断食して祈って、彼らを外国に送り出したのです。聖霊に満たされた人々のいる教会は、聖霊なる神さまの思いが良く分かるし、使徒1:8のイエスさまの約束の言葉が成就していきます。	
□ポイント2 バルナバとサウロは、キプロス島を巡回して神のこぼえを伝えました(4-7)	<p>バルナバとサウロは、聖霊につかわされてキプロス島へ向かいました。(キプロス島というのは、地中海に浮かぶとっても美しい島で、バルナバはこの島の出身だったそうです。)この伝道旅行には、マルコと呼ばれているヨハネ(12 弟子のヨハネじゃないよ)も助手として一緒にいきました。この島には人々を惑わす魔術師もいましたが、神のこぼえを聞きたいと思っている総督もいました。</p>

☆神のことばを語ろうとする時、反対するような人が出てくるかもしれません。しかし神さまはちゃんと「神のことばを聞きたい」と思っている人も備えて下さっています。

□ポイント3 神さまのことばと不思議なわざで、イエスさまを信じる人がおこりました(8-12)

魔術師エルマという人が、2人に反対して伝道の邪魔をしてきたのです。神のことばを聞きたいと思っていた総督を信仰の道から遠ざけようとしてました。しかしサウロ(パウロ)が聖霊に満たされて語ると、エルマの目が見えなくなりました。この出来事を見た総督は、主の教えに驚いて、イエスさまを信じるようになりました！

📖 サウロはユダヤ名で、パウロはローマ市民名。使徒の働き13:9以降は、パウロ名で記されています。

☆神のことばには力があって、その力は魔術の力を圧倒する力です。そして神のことば(主の教え)を信じる人々が起こされていきます。

□結論 聖霊によって誕生した教会は、自分の教会だけではなく、外国でもイエスさまを信じる人がおこされるように祈り、聖霊によって人をつかわします。 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1) 日本からつかわされている海外宣教師のために祈ろう。

- ・働きを助ける人と神さまのことばを聞きたいと思う人が与えられるように祈ろう。
- ・反対者やサタンの働きがあっても、聖霊のわざによってむしろイエスさまを信じるきっかけとなるように祈ろう。

📖 アッセンブリーからつかわされている宣教師を具体的に紹介し、HP などから祈禱課題をあげて一緒に祈ってもよいでしょう。宣教師が巡回に来られる時があったら、小学校高学年なら一般の礼拝などに参加することを勧めてみてはいかがでしょうか。あるいは牧師と相談して、宣教師に子どもたちに外国での宣教の様子をお話ししてもらい機会を作ってもらってもよいでしょう。

2) 日本にいる外国人のために祈ろう。(アンテオケ教会にもたくさんの外国人がいました)

- ・イエスさまを信じることができるように。
- ・私たちに何か手助けできることがあったらさせてください。